

第 15 回教師 & 専門家のための **不登校問題研修会**
『一人ひとりの子どもに応じた取り組みの支援をめざして行動の時』

学校長 様
諸機関・諸施設長様
教育相談・生徒指導ご担当様
養護教諭・スクールカウンセラー・心の教室相談員様

教師&専門家のための不登校問題研修会について(お願い)

当不登校問題研究会の研修も 15 年目を迎えます。昨年は全国から 1145 名の参加があり、大変好評をいただきました。今年も引続き、文部科学省、全国都道府県教育委員会連合会（全国都道府県教育長協議会・全国都道府県教育委員長協議会の連合会）の後援で【第 15 回教師&専門家のための不登校問題研修会】を開催致します。

幼児教育、生徒指導、養護、相談室の先生方だけでなく、子ども達に係わる全ての先生方が参加出来るように配慮してあります。また、児童相談所の相談員の方、福祉関係の方々、不登校にかかわる領域で仕事されている方々を対象に行います。

講師の先生方には実際の不登校児童・生徒を深く理解し、それぞれの専門分野で活躍されている我が国を代表する方々をお招きしております。

受講される皆様が不登校、またそれを取り巻く様々な問題に関する理解と取り組み（対応）を多方面にわたって学び、その実践に生かして頂くことができれば幸に存じます。

是非、この問題に取り組んでいる先生方にご参加頂きたく、ご回覧などのご配慮をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 教育研究所理事長 牟田 武生

開催主旨

不登校児童・生徒数は教育機関を含め関連機関の対策や努力の結果、平成 14 年度から全国的に人数及び出現率に於いても減少に転じました。しかし、まだ、予断を許さない状況にあります。不登校児童・生徒から社会的ひきこもりや NEET の青年まで、年齢層の幅の広がりとともに様々な状態の人が存在し、多様な様相を示してきています。

不登校は“学校を 30 日以上欠席している”という現象ですが、その中には、虐待・いじめ・学習の遅れ・友達や先生との人間関係・子ども自身の心の問題・親子関係等、様々な問題が含まれています。そのため、不登校問題に対処する時、学校教育、心理、社会福祉、医学、保育、社会学等、広範囲の領域において様々な対応が必要となります。しかし、残念ながら、現在まだ一領域の対応が中心なために、必ずしも効果的ではありません。総合的かつ連携的な取り組みへの理解者及び援助者の育成が急務になってきております。

そこで 15 年目の今年度は『一人ひとりの子どもに応じた取り組みの支援をめざして行動の時』をテーマにして、今日の教育課題【いじめ・不登校・学級崩壊・校内暴力や LD・ADHD・高機能自閉症】等の問題を、早期発見・早期対応を念頭に入れ、御一緒に考えていきます。また、今年度は不登校と言う状態像の中でも、幼児期からの様々な問題行動・LD・ADHD・高機能自閉症の状態を示す子ども達への対応のあり方を含めて、多くの専門家によってアプローチしていきます。また、より深くカウンセリングのスキルアップを図るためにトレーニングセミナーも開催します。

幼児教育、生徒指導、養護、相談室の先生方だけでなく、子ども達に係わる全ての先生方が参加出来るように配慮してあります。また、児童相談所の相談員の方、福祉関係の方々、不登校にかかわる領域で仕事されている方々を対象に行います。

講師の先生方は実際の不登校児童・生徒をよく理解していて、それぞれの専門分野で活躍している我が国を代表する先生方をお招きしております。

受講される皆様が不登校や LD・ADHD・高機能自閉症に関する理解と取り組み（対応）を様々な角度から学び、その実践に生かして頂くことができれば幸に存じます。

主催 特定非営利活動法人 教育研究所・不登校問題研究会
後援 文部科学省・全国都道府県教育委員会連合会・教育新聞社
後援期間 平成 17 年 7 月 27 日(水)から平成 17 年 8 月 26 日(金)

開催要項

☆大阪会場（全体講義）：よみうり文化ホール（大阪府 豊中市新千里東町 1-1-3）

日時 平成 17 年 7 月 27 日（水）～7 月 29 日（金）

受講費 三日受講 20,000 円（学生 10,000 円） 二日受講 16,000 円（学生 8,000 円）
一日受講 8,000 円（学生 8,000 円）

定員 500 名

☆埼玉会場（ワークショップ）：国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地）

日時 平成 17 年 8 月 4 日（木）～8 月 6 日（土）

受講費 宿泊付き（2 泊）：30,000 円（学生 15,000 円）
宿泊なし：25,000 円（学生 12,500 円）※宿泊付き・なし共、受講費の中に食費は含まれません。
※3 日間通しのワークショップとなるため、2 日受講、1 日受講の設定はありません。
※食事は施設内の会場の食堂等を利用できます。

定員 60 名（各講座 30 名）

☆東京会場（全体講義）：国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール
（東京都渋谷区代々木神園町三番一号）

日時 平成 17 年 8 月 22 日（月）～8 月 26 日（金）

受講費 五日受講 30,000 円（学生 15,000 円） 四日受講 25,000 円（学生 12,000 円）
三日受講 20,000 円（学生 10,000 円） 二日受講 16,000 円（学生 8,000 円）
一日受講 8,000 円（学生 8,000 円）

定員 700 名

- ※ 各会場とも定員になり次第締め切ります。学生の方は学生証コピーを同封または fax してください。
- ※ 受講対象は教師及び教育関係者、児童相談所相談員、精神保健福祉など関係職、教育相談担当者（カウンセラー・セラピスト・臨床心理士・ケースワーカー・ソーシャルワーカー・社会福祉士・医療関係者・学生も可）その他、不登校にかかわる領域で研究をしている方

申込方法

- ① パンフレット内の申し込み欄に必要事項を明記、また必要箇所をチェックのうえ、下記にご郵送あるいは Fax でお送り下さい。申込書を受信した段階でお席を確保致します。（確認のご連絡は致しません。ご容赦ください。）
尚、埼玉会場については事前にお電話でお席を確保の上、申込書をお送りください。

【申込書の郵送及び Fax 送付先】

〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20 NPO 法人教育研究所内 不登校問題研究会事務局
Tel. 045-848-3761(代) Fax. 045-848-3742 (<http://kyoken.org/>)

- ② 申込書送付後、なるべく早く下記いずれかの方法で受講料をお振込み下さい。入金が確認され次第、受講証・会場地図他と領収書をお送りいたします。入金が遅くなる場合はご連絡ください。

- ※ 銀行振り込みの場合、振込み人名と受講者名が違っていると、ご入金の確認ができない場合がございます。その際は申し込み用紙などに一筆お書き添えください。

【受講料振込み先】

- ・現金書留 〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20/NPO 法人教育研究所内 不登校問題研究会事務局
- ・銀行振込 みずほ銀行上大岡駅前支店 上永谷出張所（普）8040634
口座名義：特定非営利活動法人 教育研究所不登校問題研究会
- ・郵便振替 00260-1-69863 不登校問題研究会

- ※ ①・②の手続きが完了して申し込みが成立致します。

申し込み受講のご注意

- ① 3 会場で受講をご希望の場合も会場ごとの申し込みになります。（3 会場合わせて【〇日間受講】という設定はありません。）お間違いのないようにお申し込み下さい。
- ② 東京・大阪会場で共通する講師は同じテーマでの講演になります。
- ③ 申込書は楷書でご記入下さい。受講証のお送り先は夏休み中でも確実に受け取りのできるご住所をお書き下さい。
- ④ 原則としてご入金後の取り消しはできません。よくご確認の上、お申し込み下さい。
- ⑤ 郵便振替でのご入金は着信までに数日かかります。**大阪会場は 7 月 10 日以降、東京会場は 7 月 25 日以降**にお申込みの場合は、必ず電話でお席を確保の上、ご入金ください。
- ⑥ テキスト・資料などは参加受付時に各会場でお渡しいたします。
- ⑦ 天災等により、一部地域で交通機関の混乱等があっても研修会が開催された場合は参加費の返金はできません。ご了承下さい。
- ⑧ 止むを得ない事情により、講師を変更する場合がございます。その際にご容赦下さい。
- ⑨ 会場までの交通費、お食事代（各会場とも）は各自でご負担下さい。
- ⑩ 東京会場（オリンピックセンター）でのご宿泊に関しては事務局では扱えなくなりました。オリンピックセンター（03-3469-2525 申込み受付専用）にて直接ご予約下さい。
- ⑪ 宿泊等はホールワールドトラベル/03-5695-6671（担当 塩見）でもご案内しています。

大阪会場スケジュール 7月27日(水)～7月29日(金)

日	時間	講師&講座名	講座内容
七月二十七日(水)	11:00～12:50	【軽度発達障害への支援と特別支援教育コーディネーターの役割】 京都府立丹波養護学校亀岡分校 教頭 前京都府教育庁指導部障害児教育課 総括指導主事 青山 芳文	特別支援教育コーディネーターの役割について、京都府のモデルを話す。講師は軽度発達障害を良く理解し、対応モデルを作った。現在は教育の場に戻り、活躍している。『教員・保育士・管理職・指導主事・相談員必修講座』
	14:00～15:50	【高機能自閉症およびアスペルガー症候群の今日的理解】 京都大学医学部教授 十一 元三	広汎性発達障害の概念や歴史的な変遷を基に、現在最も神経学的に脚光を浴びている脳部位である扁頭体一辺縁系障害説について分りやすく解説する。この分野の第一人者。『教員・保育士・管理職・相談員必修講座』
七月二十八日(木)	10:00～11:50	【今、子ども達がおかれている社会環境を分析する】 大阪市立大学名誉教授 大阪樟蔭女子大学教授 森田 洋司	逸脱行動としての不登校、ひきこもり、NEET、少年犯罪などの原因は何か。子どもや若者にどのような支援が可能なのか。その予防と対応を考える。『全教員必修講座』
	13:00～14:50	【人間関係の改善を図るピア・サポート活動】—不登校を誘発するいじめなどの対立問題への介入とその技法— 奈良教育大学教育実践総合センター助教授 池島 徳大	いじめ・不登校等、長年にわたって教育相談活動を実践する講師から、子どもの心を開かせ、気持ちを掴む技法(コツ)を学ぶ。好評の講座『全教員・相談員必修講座』
	15:10～17:00	【教育に活かすカウンセリングの基礎基本】 兵庫教育大学教授 上地 安昭	見え難くなった子どもの心。人間関係のスキル不足の子ども達。教育現場で活かせるカウンセリング技術の基本を学ぶ。好評の講座『全教員・相談員必修講座』
七月二十九日(金)	10:00～11:50	【社会環境の変化によって生まれた新しい不登校・ひきこもり】 不登校問題研究会代表幹事 NPO 法人教育研究所理事長 牟田 武生	ひきこもりを伴う不登校は充分な対応をしないとNEETになる可能性がある。横浜市での調査を元に、ひきこもりの2つのタイプの対応の仕方を考える。『全教員・相談員必修講座』
	13:00～15:10	シンポジウム【若者たちが語る不登校・ひきこもり】—日韓交流を続けて— パネラー：みらいの会代表 野田 隆喜・体験者の方々 聞き手：牟田 武生	ひきこもりの体験者とひきこもり支援のための生活寮を主宰する「みらいの会」の野田隆喜氏に聞く。韓国との交流を通して、若者達の元気を引き出す秘訣を聞く。『全教員・相談員必修講座』

埼玉会場 講座紹介&スケジュール 8月4日(木)～8月6日(土)

※埼玉会場は少人数制のワークショップ形式です。申し込み時にどちらかの講座を選んでいただきます。共通講座(オリエンテーション+全体質疑)が2コマ、A講座・B講座に分かれて各講師が90分×5コマの講座を受け持ちます。原則的に期間中の講座の変更はできません。少人数でより詳しく専門的に学んでいくワークショップにしていききたいと思います。各講座とも定員(30名)となり次第締め切りとなります。お電話でお席を確保の上、お早めにお申し込み下さい。

A講座	【自閉傾向児、LD、多動児の心理と発達支援】—幼児期の指導がきわめて効果的— さいたま市教育相談センター所長 国際学院埼玉短期大学 客員教授 金子 保	幼児教育の専門家から、問題傾向を持つ子ども達の発達支援の実際のあり方についての理論と誰でもが身に付けることができるノウハウを学ぶ。明日からの幼児教育にすぐ役立つ講座。『保育士・小幼教員・園管理者必修講座』	
B講座	【ひきこもりを伴う不登校への対応】 カウンセリングとケースワークの実際について考える 不登校問題研究会代表幹事 NPO 法人教育研究所理事長 牟田 武生	ひきこもりを伴う不登校への対応は難しく、長期間に及ぶ。対応を誤るとNEETへ移行することがある。ひきこもりをタイプ別に分け、その具体的なカウンセリングとケースワーク、家族支援のあり方を学ぶ。『全教員・相談員必修講座』	
日程	午前	午後1	午後2
8月4日(木)	10:30～12:00 オリエンテーション & 講座紹介	13:30～15:00 各講師による ワークショップ①	15:20～16:50 各講師による ワークショップ②
8月5日(金)	10:30～12:00 各講師による ワークショップ③	13:30～15:00 各講師による ワークショップ④	15:20～16:50 各講師による ワークショップ⑤
8月6日(土)	10:30～12:00 まとめと全体質疑	解散	

東京会場スケジュール 8月22日(月)～8月26日(金)

日	時間	講師&講座名	講座内容
八月二十二日(月)	11:00～12:00	【不登校に対する総合的な取組】 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課課長補佐 倉見 昇一	不登校に対する最新の総合的な取組について、文部科学省の担当者から講義を受ける。減少傾向にある不登校であるが、予断を許さない状況はまだ続いている。減少に向けての今後の取組のあり方について考える。
	13:00～14:00	【次世代育成支援対策における自治体行動計画】 厚生労働省 児童健全育成専門官 鈴木 雄司	少子高齢化が進み、次世代育成支援は我が国にとって、重要な施策になってきている。しかし、児童虐待、不登校、ひきこもり、NEETと子どもや若者は様々な問題を抱えている。厚生労働省としての取り組みを考える。
	14:20～16:20	シンポジウム【体験者が語る—不登校・ひきこもり】 パネラー：不登校・ひきこもりの体験者の方 コーディネーター：ジャーナリスト 池上 彰	不登校の体験を通して“どのような理解や支援が必要なのか”を聞く。体験者の生の声の中に本質が見えてくる。池上氏のインタビューの仕方は【子どものこころの鍵を解く】カウンセリングマインドがある。『大好評の講座』

八月二十三日 (火)	10:00 ～ 11:50	【不登校への対応】—学校での取り組みを中心に— 明治学院大学心理学部教授 下司 昌一	教員、指導主事などを通して、教育相談のあり方や学校での取り組みについて具体的に講義する。経験豊富な講師から学ぶことは多い。『全教員・相談員必修講座』
	13:00 ～ 14:50	【特別支援教育と軽度発達障害—理解と支援—】 国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部 総合研究官 精神科医 渥美 義賢	軽度の発達障害について医学的なアプローチを試みる我が国を代表する研究者から最新の研究を聞く。最前線の研究を明日の教育に活かす講座。『教員・保育士必修講座』
	15:10 ～ 17:00	【自閉傾向児、LD、多動児の心理と発達支援】 —幼児期の指導がきわめて効果的— さいたま市教育相談センター所長 国際学院埼玉短期大学 客員教授 金子 保	幼児及び教育相談の大ベテランの講師。幼児期・小学校低学年で現れる問題行動を早期発見し、対応することが最も大切と主張する。『幼・小担任・相談員必修講座』
八月二十四日 (水)	10:00 ～ 11:50	【熊谷市の不登校半減計画の実際】 東京学芸大学教授 小林 正幸	不登校問題のトップの研究者であり、長年にわたり、教育相談を実践してきた講師はアイデアマンでもある。熊谷市の不登校を半減した秘訣を語る。『指導主事必修講座』
	13:00 ～ 14:50	【軽度発達障害児の理解と対応】 —LD・ADHD等の子どもの指導をめぐる— 東京学芸大学教授 上野 一彦	この問題について我が国を代表する研究者から講義を受ける。LD・ADHD等の子どもの指導についての実際を具体的に講義する。『教員・保育士・相談員必修講座』
	15:10 ～ 17:00	【今、子ども達がおかれている社会環境を分析する】 大阪市立大学名誉教授 大阪樟蔭女子大学教授 森田 洋司	逸脱行動としての不登校、ひきこもり、NEET、少年犯罪などの原因は何か。子どもや若者にどのような支援が可能なのか。その予防と対応を考える。『教員必修講座』
八月二十五日 (木)	10:00 ～ 11:50	【心の基礎づくり】 早稲田大学人間科学部教授 菅野 純	子ども達の心はどう育つのか。心の基礎は全ての発達と教育の土台。教師や相談員・親として、子どもの心を育むのかについて講義する。『全教員・相談員必修講座』
	13:00 ～ 14:50	【学級の間関係づくり】 —対人関係ゲーム入門— 筑波大学人間総合科学研究科教授 田上 不二夫	生活環境の変化で対人関係能力が不足した子どもや若者が増えている。対人関係能力を付けることは社会生活を送るための基礎になる。『全担任・教員必修講座』
	15:10 ～ 17:00	【自立とは相互依存のこと】 —人を信じて、自分を信じて— 川崎医療福祉大学特任教授 佐々木 正美	人を信じ、自分を信じて生きることは、全ての土台でもあり、哲学でもある。優しい眼差しと心を持つ、我が国を代表する児童精神科医の講義。『全教員必修講座』
八月二十六日 (金)	10:00 ～ 11:50	【不登校・ひきこもり】—精神科医の立場から— 北の丸クリニック所長 (社)青少年健康センター常任理事 倉本 英彦	講師は不登校・ひきこもりを治療する代表的な精神科医。豊富な臨床事例を持つ、教育と医療の連携を含む多くの示唆が得られる。『全教員・相談員必修講座』
	13:00 ～ 14:50	【不登校・軽度の発達障害どう対応するか】 前国立特殊教育総合研究所統括研究官 山形県立上山高等養護学校 学校長 花輪 敏男	豊富な教育相談事例と現場に基づく理論を持つ講師が講義する。毎年、好評の講座。教育現場に戻った講師からの具体的な話を聞く。『教員・保育士・相談員必修講座』
	15:10 ～ 17:00	【社会環境の変化によって生まれた新しい不登校・ひきこもり】 不登校問題研究会代表幹事 NPO 法人教育研究所理事長 牟田 武生	ひきこもりを伴う不登校は充分な対応をしないとNEETになる可能性がある。横浜市での調査を元に、ひきこもりの2つのタイプの対応の仕方を考える。『教員・相談員必修講座』

申 込 書 (必要事項を記入し、該当する☑チェックしてください)

☆申し込み日 平成17年 月 日	※受講番号 (記入しないでください)		
参加者氏名 (ふりがな)	領収書宛名		
ご勤務先名	ご勤務先 所在都道府県名 (都・道・府・県)		
受講証送り先ご住所 (ご自宅・ご勤務先) 〒 ご連絡先 Tel () Fax ()			
☆ご希望の会場を☑ (チェック) してください。 □大阪会場 □埼玉会場 □東京会場 ※埼玉会場はお電話でお席を確保の上、お申込み下さい。			
☆大阪会場・東京会場をご希望の方は、受講希望日を☑してください。 大阪会場 □7/27 □7/28 □7/29 東京会場 □8/22 □8/23 □8/24 □8/25 □8/26			
☆埼玉会場での希望講座及び宿泊希望の有無、を☑してください。 希望講座 □A講座 (金子 保 先生) □B講座 (牟田 武生 先生) 宿泊 □希望する □希望しない			
☆申込書送付方法を☑してください。 □郵送 □Fax	☆お支払方法を☑してください □現金書留 □銀行振込 □郵便振替	☆お振込金額をお書きください 円	

※ この研修会への参加を契機に、是非それぞれの地域で連携、交流を深め、お互いの取組の質を高めていただきたいとの主旨で参加者名簿を配布させていただきたいと考えております。名簿はお名前とご勤務先名のみ表示ですが、名簿への掲載を望まない方は次の☐をチェックしてください。(名簿への掲載を望まない ☐)